

県議会代表質問

# 東三河のポテンシャル高める

## 大村知事「道路網機能を強化」



渡会克明氏

このうち渡会氏は、県の財政運営をはじめ、手話言語の普及および障害者の特性に応じたコミュニケーションシヨン手段の利用促進条例の推進、スポーツ施策の推進体制、東三河のインフラ整備地震防災対策、県産農産物の需要拡大、女性の活躍促進、東三河の県立高校づくりなど、幅広い分野にわたって県の見解をたじた。

2月定例県議会は28日再開。代表質問が行われ、中野治美(自民・津島市)▽富田昭雄(民進・名東区)▽渡会克明(公明・豊橋市)の3氏がそれぞれ会派を代表して質問に立った。

大村秀章知事は、東三河のインフラ整備について「東三河は遠州、南信地区と接した愛知の東の玄関。産業、観光の分野で地域力を高めていくことが愛知の発展に不可欠。第2東名の開通で物流がよくなり、交流域も大幅に拡大した。このイ

ンパクトを生かし遠州、南信州のモノづくり産業との結びつきを強化するインフラや渥美半島、三河湾、奥三河をターゲットにした広域観光を強化するインフラ整備が必要。三河港の物流強化を図るとともに、セーリングの国際大会やクルーズ船の受け入れ施設整備を進める。また、名豊道路や東三河環状道路、国道151号などの整備を進め、戦略的に道路ネットワーク機能を強化。東三

河のポテンシャルを高め、県の総合力に厚みを増したい」などと答弁した。スポーツ施策の推進体制では「県内のスポーツ振興に寄与、地域の活性化にも大きな効果をもたらす国際的、全国的なスポーツ大会を積極的に進めたい。選手強化とともに2020年のオリンピック・東京パラリンピックに向けて地元選手の強化に取り組んでいきたい」との考えを示した。(後藤康之)